

## 令和元年度 全国学力学習状況調査の結果 京都市立西陵中学校

4月18日に、本校3年生65名を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語、数学、英語の3教科のテストと同時に、学校や家庭での過ごし方を問う調査も実施されており、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

### 【総合結果（国語・数学・英語）】

数学はやや平均を下回り、国語・英語は全国平均を下回っています。細かい分野別にみると、授業を中心に頑張っている成果として表れている部分が見えます。また、今回英語において「話すこと」についての問題が新たに取り入れられました。その中で意欲的に答えられた問題もある中、無解答率が高い事が気になりました。また、「書くこと」についても苦手意識が強い傾向がみられました。

ALT（外国語指導助手）の授業充実や家庭学習など「話すこと」に対して積極的な姿勢を育てることを目指していきます。

今回は、まだ成果が表れていない点もありましたが、基礎学力の定着とともに  
取り組み続けていきます。



### 【国語】

国語に苦手意識を持つ生徒は少なくないようで、調査結果は平均を下回りました。特に封筒の宛名書きをする等、日常生活で活用する力や慣用句等の様々な語彙に関する知識量が少ないことが分かりました。また、記述式の問題になると無回答率が上がってしまいます。読書を好きと答える率が低かったこととの関連性を感じます。長い文章に抵抗感を持たず、よく読んで正確に内容を理解する力をつけていきましょう。

一方、記述に答えた生徒の正答率は比較的全国平均に近く、選択式であれば無回答も0でした。朝読書や授業中に取り組んでいる新聞記事内容の読解をとおして、文章に読み慣れ、語彙を増やして活用する力を付けましょう。

### 【数学】

合計平均正答率は全国よりも下回ってしまいましたが、分野別では「数学的な技能」、領域別では「関数」について全国を上回る結果となりました。

特に問題別では「反比例の式を求める」が70%（全国50%）「2枚の硬貨から確率を求める」が90%（全国75%）でした。これらは、毎授業始めに行う「3分間テスト」の効果が表れていると考えられます。

一方、「数学的な見方・考え方」の分野で、特に「説明する」問題が課題です。定期テストでも毎回出題していますが、なかなか成果が表れていないのが現状です。しかし、正答にたどり着かなくても考えて書いてみようとしている人が多いので、普段の授業から「なぜ？」を大切にしたいと思います。

### 【英語】

英語に苦手意識をもつ生徒が多いようで、全般的に平均を下回りました。「聞くこと」に関しては、全国平均に近い正答率でした。聞いた内容そのものを理解したり、整理したりすることはおおむねできていますが、自分の考えや意見を示すことに課題が見られました。内容に対して、自分の考えや意見を示すことができるよう取り組んでいきましょう。

また、「話すこと」に関して「即興でやりとり」することに難しさを感じる生徒が多くみられました。「書くこと」では「まとまりのある文章」を書くことそのものに苦手意識を持つ生徒が多いようです。ALTを積極的に活用し、英語で話したり、書いたりすることへの抵抗感を減らしていきましょう。

## 【生徒質問紙調査より】

Q:ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。

	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
本校	70%	26.7%	3.3%	0%
京都府(公立)	74.3%	19.3%	4.6%	1.8%
全国(公立)	75.6%	18.3%	4.4%	1.7%

「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある、どちらかといえばある」生徒が全国より多く、ほぼ全員の生徒が最後までやり遂げてうれしいという経験を積んでいます。そういった経験を積み重ねていくことで、将来の目標に向けて立ち向かう強い意志や、やり抜く力を伸ばしていって欲しいです。

Q:学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)

	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 3時間未満	30分 未満	全くしない
本校	10%	16.7%	21.7%	10%	21.6%	20%
京都府(公立)	10.7%	22.3%	31%	16.7%	11.8%	7.5%
全国(公立)	9.9%	25.6%	34.3%	17.2%	8.4%	4.6%

家庭学習等の勉強時間が、3時間以上の生徒の割合が10%と全国平均並です。ただ約半数の生徒が「1時間未満」と、全国に比べて時間をかけられていないのが現状です。予習・復習の習慣や先を見通した学習計画を立てて、実行していく事ができるようになって欲しいと考えます。

## 【保護者の皆さまへ】

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちのさまざまな力を伸ばし、課題を解決していくためのものです。今回の結果が、学力のすべてを表わしているのでも、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域みんなで見守り、地道な取組の積み重ねにより高まっていくもので、日々の生活や学習の習慣がその基盤となるのです。上記アンケート結果のように、「ものごとを最後までやり遂げられてうれしかったことがありますか」の質問に対し、多くの生徒たちがうれしかったことがあると答えてくれました。これは学校生活の中で、「授業」だけでなく「部活動」や「西陵祭」「生徒会活動」など生徒達が活躍する場面において生まれた達成感だと考えます。粘り強く継続して取り組む姿勢で学習していくことが、子どもの学力の伸長につながります。

今回の本校の結果をみると、学力は少しずつ伸びてきていますが、課題もあります。アンケートにもあるように課題のひとつが「家庭学習等の勉強時間の短さ」です。その原因のひとつに「携帯電話・スマートフォンの使用時間」が考えられます。ご家庭でも今一度見直して頂き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いします。

